

# 足羽川河川環境整備検討会 第4回



平成18年3月16日  
福井県

## 検討会に寄せられた意見(福井市)

意見	対応
<p>芝生自由広場・花火打ち上げ場所周辺について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木田橋上流右岸の高水敷が現況より小さくなるが、縮小を最小限に。水辺に「花火浅敷」などを仮設するなど二次利用が可能な整備。</li> </ul>	<p>低水路法線見直しによる高水敷面積の縮小幅は最小限としています。当該区間は砂州が形成される区間であり、砂州上も二次利用が可能であるので、設計の段階で検討します。</p>
<p>堤防遊歩道について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歩いて、歴史や文化の雰囲気が感じられるような風情のある舗装化。</li> </ul>	<p>堤防天端は地域の人々が安心して、心地よく散歩していただけるように落ち着きを感じられるよう色合いや素材に設計の段階で検討します。</p>
<p>イベント広場について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント広場は九十九橋～花月橋間の高水敷幅の広い場所としたほうが有効利用できる。</li> <li>・ イベント広場の対面の堤防の裏面を階段状の護岸とし、観覧席として利用したり、通常は、若者カップルや散策者の休憩ゾーンとして利用。</li> <li>・ 右岸から桜並木全体や足羽山を眺望できるような護岸、河川敷の環境づくり。</li> </ul>	<p>花月橋～九十九橋をイベント利用を兼ねたオープンスペースとして整備します。</p> <p>九十九橋上流左岸船着場付近をミニイベントができる広場として整備し、平常時も訪れた人々が憩えるようにします。</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川敷・堤防法面の花壇化</li> <li>・ 大型バス等の駐車場</li> <li>・ 電気、上下水道、トイレなどのイベントインフラの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川敷、堤防法面は足羽川在来の自然植生の生育場とすることを原則としています。</li> <li>・ 大型バスの駐車場新設などの整備は、整備の進捗状況等を踏まえ、住民、各種団体、福井市等と協議します。</li> </ul>

## 住民等の方々からの主なご意見等(福井県ホームページ、住民説明会等)

### (治水・改修工事に関するご意見)

意見	対応
足羽川にバイパスをつくるなどして、市街地に流さないようにしてはどうか。	九頭竜川流域委員会で議論しています。
激特事業は、5年間でどこまで進めるのか。	河床掘削、堤防の強化、橋梁の架替などを行います。
塩水の溯上はどうなるのか。	計算シミュレーションでは、影響はほとんどありませんが、モニタリングを行っていきます。
工事の進捗を見る限り、河川環境を保全する工法とは程遠い。河畔林の管理に関しても、河畔林の特性を無視した皆伐に近い工法で、災害復旧に名を借りた河川改修突貫工事である。	再度災害防止の観点から、早急に改修を実施する必要があります。このため、在来植生群落をできるだけ存置し、工事による踏み荒し部分をできるだけ少なくするなどして、既存の自然環境に配慮し、早期の復元に努めます。
景観・環境よりも堤防強化など、100年の計を立てるべき。	再度災害防止という観点から、治水上の安全性確保のために事業を進めていますが、その中で、河川環境、水辺空間利用などによる地域振興の可能性について検討しています。

### (桜堤に関するご意見)

意見	対応
安心安全が第一であり、堤防の強化をすべきである。	市民の安全を確保することを最優先に考えていますが、河川環境や景観への配慮も重要です。この点に関しては、検討会において議論をいただいています。
桜堤については、安全第一であるが、景観と両立してほしい。	
県も市も金がないのだから、桜に多額の金を使うべきではない。	限られた予算の中では、事業を行う限界もあります。桜の管理に関しては、市民の協力が必要不可欠と考えておりますので、皆さんの積極的な参加をお待ちしております。
2.2kmの桜のトンネルを上流へも下流へも延ばしていきたい。 市民と企業による植樹運動の促進。桜基金の設置。桜の里親制度。	
道路を狭くすること絶対考えてほしくない。	治水上の安全性確保しながら、桜堤も保全していくという方針で検討しています。沿川の住民の方々のご意見もお聞きしながら、検討会で議論しています。今後も、住民の方がと十分話し合いながら、進めていきたいと考えています。
せっかく今まで広げてきた道路を、なぜ今になって縮小するのか。	
桜は一列でも構わない。	
道路は5mで十分。一方通行でもよい。	
川側を住民の憩いの場としてブロックで観覧席のように、住宅地側を子どもの安全を考えて芝生にできないか。	
多種類の桜の植栽。桜以外のシーズン、四季を通じて楽しめるような植生(もみじや草木など)の植栽。	

## (自然環境に関するご意見)

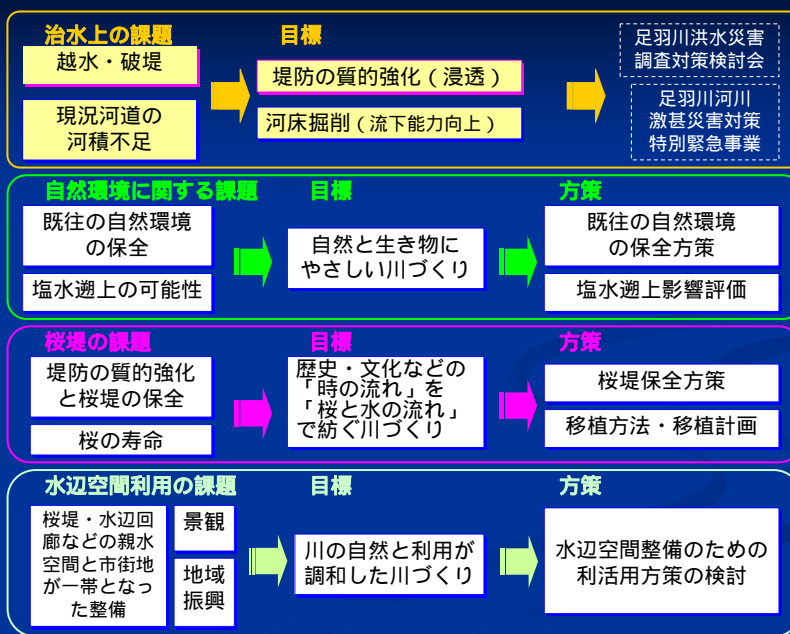
意見	対応
・水質浄化に力を注いで、魚が沢山生息する豊かな川。	これらの意見は、検討会の提言の基本方針にできるかぎり反映しております。 具体的には低水護岸に多自然型護岸を採用し、水際の多様化、多孔質化を図り、メダカなどの小型魚や稚仔魚の生息場を復元します。また、表土を仮置きして再度、覆土することで、埋土種子による湿地性植物の早期復元を図ります。 また、水裏など自然に土砂が堆積しやすい箇所にワンドを設置し、水際植物の生育場、止水性魚類の生息場、サギ類など鳥類の生息場を復元再生を目指します。
・河川敷にワンドを創設して、野鳥の休息場となる湿地のある水辺空間を造ること。	
・コンクリート護岸を露出せず、この上に土盛り等を行い、水辺植生の再生を図ること。	
・河畔林や河川植物による河川自浄作用を効果的に引きだすよう河川管理を行うこと。	
・急激な環境の変化を避けるため、対岸の伐採にとどめること。伐採された植生環境が十分回復した後に対岸の伐採を考慮すること。	
・低水敷の水際に群生している樹木及び草本類は残すよう配慮し、必要に応じて水制的作用のある凹凸伐採を行うこと。	
・河道掘削によりワンドを創出し、多様な水生生物の生息を促すこと。	
・水際には変化をつけて、多様な生き物の生態空間の創出を図ること。	
・低水護岸の覆土等による自然植生を図ること。	

## (水辺空間利用に関するご意見)

意見	対応
日常的に県民が川や河川敷を活用できるように散策や食事を愉しんだり、健康運動スペースやカヌーなどの活動スペースとして整備してほしい。	いただいた意見を検討会に提示して、議論していただいています。できるだけ提言に盛り込めるように考えています。 また、提言に盛り込めない場合でも、住民の方々、各種団体、福井市などと、今後も協議していきたいと考えています。
水辺空間の利用について、左右岸の河川敷についても市民、観光客が散策等に利用しやすいように考慮してほしい。	
足羽河原に子どもたちが遊べる浅瀬を確保してもらいたい。	
カッパルを呼べるような取組みが必要。YOSAKOIイッチョライの踊り練習スペースがほしい。	
イベントをするにも電源・水道・トイレなどの仮設に予算がかかりすぎる。常設の設備の設置。	
駐車場の整備を是非お願いしたい。	
観光用の大型バス駐車場の整備。	
幸橋から新明里橋の左岸高水敷に春の小川をイメージしたせせらぎ水路を造る。	
水越左岸上流「鴨渡公園」と水辺環境及び河川敷の一体的整備。	
堤に自生する「野草マップ」の作成	
中高齢者を含めた市民のためのウォーキング用歩行環境の整備(衝撃の少ない歩行面、緩やかな斜面のある歩行路など)	いただいた意見を検討会に提示して、議論していただいています。できるだけ提言に盛り込めるように考えています。 また、提言に盛り込めない場合でも、住民の方々、各種団体、福井市などと、今後も協議していきたいと考えています。
屋根付パーベキューサイトの設置	
カヌー乗降場の整備(車いすでも使用可能な、水際までのスロープ・階段など)	

# 足羽川河川環境整備計画

## 河川環境整備に関する課題、目標、方策



足羽川河川環境整備検討会

## 基本方針

### 全体イメージ

足羽山、越前福井の歴史文化を  
紡ぎ織り上げる 足羽の川づくり

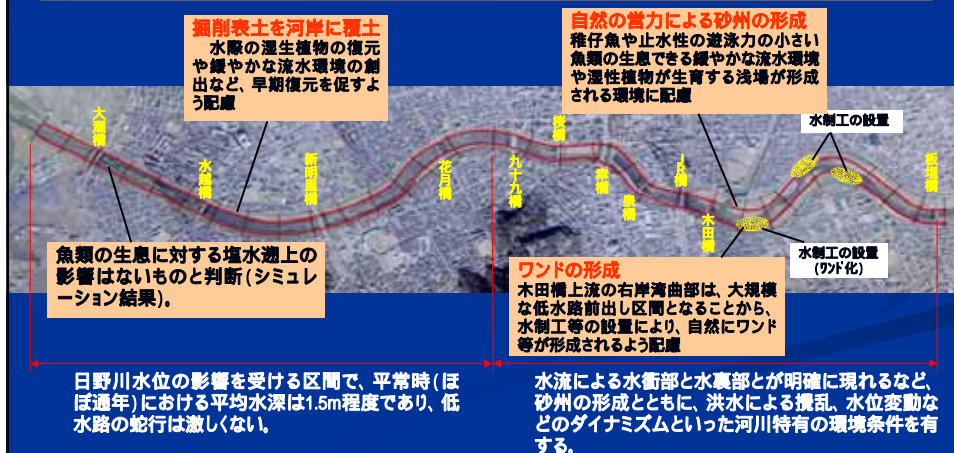
#### ●基本方針

- (1)足羽川流域内の住民の命と生活を守る安全安心な川づくり(治水、安全)
- (2)自然と生き物にやさしい川づくり(自然環境)
- (3)川の自然と利用、河川と地域が調和した川づくり(利活用)
- (4)歴史・文化などの「時の流れ」を「桜と水の流れ」で紡ぐ水辺空間・景観づくり  
(桜並木、地域融合)

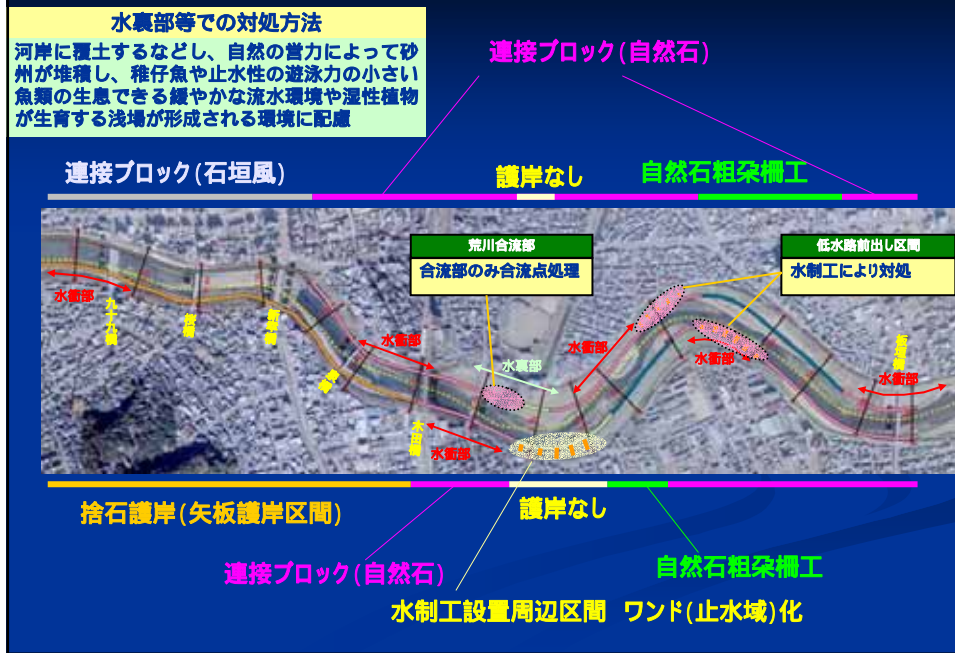
## 自然環境の保全方策

### (1)水域・水際環境の保全方策

- 砂州が形成されやすい水裏部等では、表土覆土等による在来植生の早期復元に努める。
- 低水護岸については極力、自然的素材(石材、木材、植生など)を用いた工法を採用することとし、水際環境の多様性に配慮する。



## 低水護岸工法の選定(九十九橋上流区間)



## (2)高水敷等での自然環境の保全方策

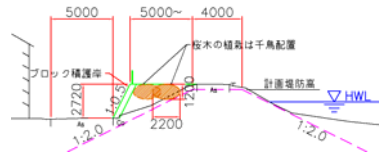
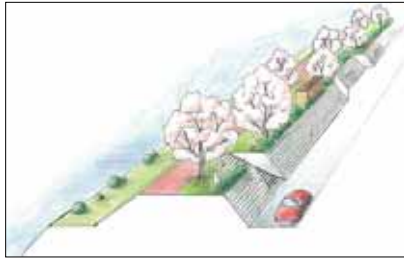
- 現存する在来の自然環境を保全することはもとより、河川改修に伴う河川敷の攪乱による外来種の進入を防ぎ、できるかぎり良好な自然環境に近づけるよう自然の再生に努める。
- 河川敷に整備する散策路、広場等については、その周辺自然地の保全に努めることとし、水域からの連続したエコトーン(生態系の推移帯)の形成に配慮する。



# 桜堤堤防案の検討

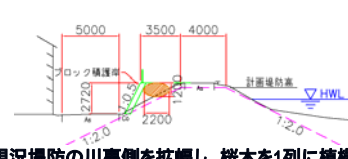
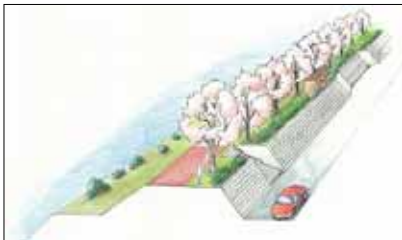
堤防定規内に桜根が入らない案の採用

## トンネル状案



現況堤防の川裏側を拡幅し、桜木を千鳥配置で植樹する案  
**(メリット)**  
 ・桜のトンネルを極力再現  
 ・堤防の安定性確保  
**(デメリット)**  
 ・用地の不足する区間では用地補償の問題

## 1列植樹案



現況堤防の川裏側を拡幅し、桜木を1列に植樹する案  
**(メリット)**  
 ・堤防の安定性確保  
**(デメリット)**  
 ・桜木の植樹は1列のため、景観は現状より劣る  
 ・道路幅員を狭めたり、用地の提供が必要(ただしトンネル状案ほど必要ない)

## 3Dイメージによる桜堤景観の比較



現況



改修後:トンネル状案



改修後:1列植樹案

3Dイメージによる沿道の状況比較

現況



計画



3Dイメージによる沿道の比較

現況



計画(緑化ブロックの場合)



計画(緑化ブロックにシバザクラを植栽した場合)



## 擁壁の圧迫感を低減する方策

側帯を2段にすることで、圧迫感を低減。

側帯幅に余裕のある箇所では、多段の植栽等、桜の見せ方に変化をもたせる

圧迫感を感じない仰角  
15~20°以下に抑える

側帯擁壁を緑化する

イメージ例の実現には、市や市民の皆さんのご理解とご協力が必要

将来的な植替えを考慮し、最小必要間隔9mで移植する

## 3Dイメージによる桜堤景観 (圧迫感軽減策)



## 様々な樹齢の桜を植栽する、永続的・多層的な桜堤の提案(多層性)

現況桜の樹齢は50年目。一挙に寿命を迎える。

- ・永続的に桜堤を絶やさないためにも若木を混植。
- ・人間社会と同様に、様々な年齢の桜が混在する姿。
- ・幼木の配置については、植栽直後の景観に配慮。



### 3Dイメージによる桜堤景観 (多層性)

成木のみの場合

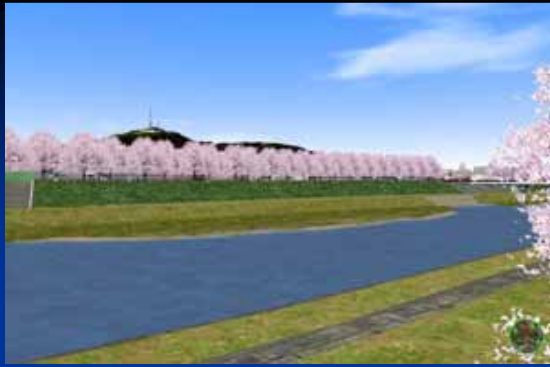


若木植栽



3Dイメージによる桜堤景観  
(多層性)

成木のみの場合



若木植栽



3Dイメージによる桜堤景観  
(多層性)

成木のみの場合



若木植栽



## 様々な種類の桜を植栽する多様な桜堤の提案(多様性)

		メリット	デメリット
ソメイヨシノのみ		一斉の開花時は見栄えよし	一斉に咲き、散るため、花の見頃時期が短い
他樹種混栽	交互に植樹	開花期の異なる樹種を選定することにより、長い期間、桜のアーチが楽しめる	一斉に開花しないことから、見栄えは劣る
	一定区間毎に植樹	開花期の異なる樹種を選定することにより、長い期間、花見が楽しめる	桜堤全体を見渡したとき、見栄えはやや劣る

品種名	開花期(4月)	花色	花形	樹形	樹勢
ソメイヨシノ	上旬	白	5弁	高木	強い
エドヒガン	上旬	白又は淡紅	5弁	高木	強い
アリアケ	中旬	ピンク	5弁重弁	中木	強い
イチョウ	下旬	ピンク	八重	中木	強い
ウコン	下旬	黄色	八重	中木	強い
カンザン	下旬	紅紫色	八重	中木	強い
ショウゲツ	下旬	ピンク	八重	中木	中
センリコウ	下旬	白	八重	低木	中
ヤエベニシダレ	上旬	濃紅色	半八重	中木だれ	強い
オオヤマザクラ	下旬	濃紅色	5弁	高木	強い



3Dイメージによる桜堤景観  
(多様性)

ソメイヨシノのみの場合



エドヒガン、オオシマザクラ  
を混植した場合



3Dイメージによる桜堤景観  
(多様性)

ソメイヨシノのみの場合



エドヒガン、オオシマザクラ  
を混植した場合



**3Dイメージによる桜堤景観  
(多様性)**

ソメイヨシノのみの場合



エドヒガン、オオシマザクラ  
を混植した場合



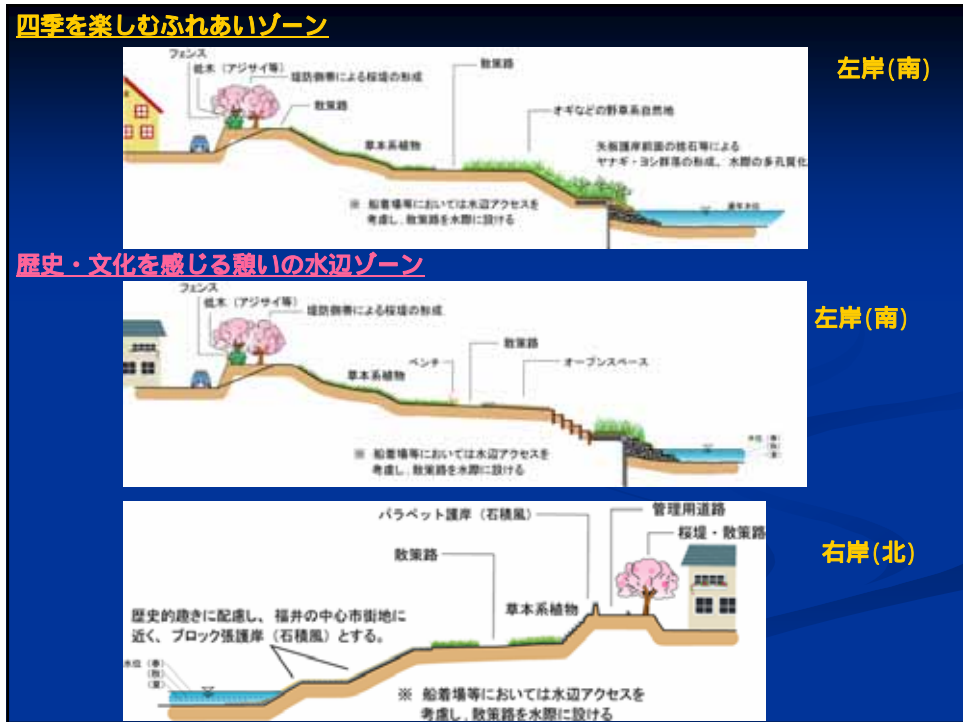
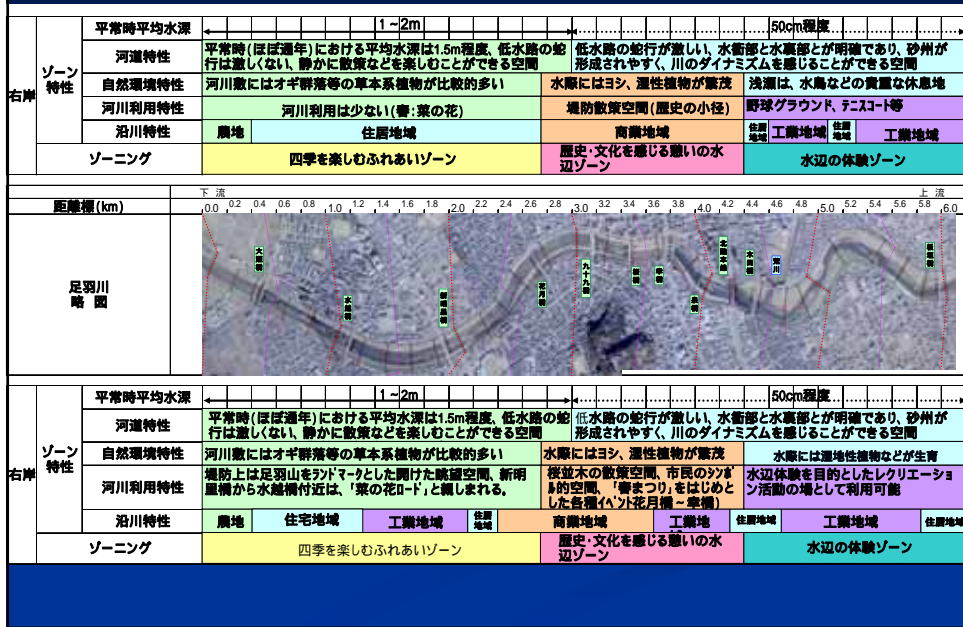
**水辺空間の利用**

**(1)ゾーニング**

河川空間特性、土地利用形態を踏まえ、検討対象範囲であり日野川合流から板垣橋の区間を3区分した。各ゾーンにおいて特色ある整備テーマ、整備メニュー設定。



## (2)ゾーニング特性図



### 水辺の体験ゾーン

左岸(南)



### (3)拠点施設の整備概要

#### 四季を楽しむふれあいゾーン

#### 整備コンセプト

足羽川在来の身近な自然や貴重な生態系を保全するとともに、足羽川の四季折々の景観にふれあい楽しみながら、人々の出会い・ふれあいを演出するゾーンであり、環境と利用が調和した、市街地と河川空間が一体となった人と自然にやさしい整備を行う。





**日野川合流点～花月橋(2.7k付近)**

**四季を楽しむふれあいゾーン**

主な利用形態

眺める・遊ぶ・憩う・集う・触れ合い

**( 主要な拠点施設の整備案 )**

**展望公園(市街地との一帯化)**

鴨渡公園と隣接する空間を堤防と一体となった展望公園整備する案。住居地域から河川へと連続する公園を整備する案。



水越橋上流左岸 鴨渡公園



展望公園イメージ

**( その他の整備案 )**

**花月橋等 橋詰め眺望スペース**

- 橋詰めのもつ特性、すぐれた眺望性を活かす、橋上バルコニーや橋詰め広場。
- 足羽山を借景とした川の眺望景観を楽しむ場として、花月橋、新明里橋の右岸側などが考えられる。



都会的な広場として整備された橋詰め空間  
(広島市・元安川 平和大橋)



### 花月橋(2.7k付近) ~ JR北陸本線橋(4.2k付近) 歴史・文化を育む水辺ゾーン

**主な利用形態** 眺める・憩う・遊ぶ・体験する(舟運・水辺に近づく)・飲食する  
**( 主要な拠点施設の整備案 )**

**イベント利用を兼ねたオープンスペース**

花月橋～九十九橋上流の区間をイベント利用を兼ねたオープンスペースとして整備。九十九橋上流左岸の船着場周辺の高水敷にイベント利用や遊技広場等のミニイベント広場として利用することも考えられる。

**ミニイベント広場イメージ**

(その他の整備案)

歴史サインの設置

足羽川と人々の関わりなど歴史サインを設置し、歴史のみちと連携する散策空間づくり。二次元コードを利用した情報提供。



江戸時代、九十九橋  
左岸上下流に広がる  
桃島(福井市「春  
嶽公記念文庫」蔵)



QRコードから  
利用者が関  
連する情報  
(施設、地域  
など)を閲覧。

江戸時代、九十九橋  
左岸上下流に広がる  
桃島(福井藩十二ヶ月  
年中行事絵巻)



携帯webサイト立ち上げ・管理が前提

足羽川石垣護岸の復元

福井城外堀、石垣護岸を復元。右岸の護岸を石垣風に修景改良。

明治後期ころの足羽川護岸

出典:坪田仁兵衛家「絵はがき」、  
福井県文書館所蔵



Ashiwa-gawa. (一其) 川羽足 (景風井福)

## 桜堤ライトアップ

足羽川の桜堤を楽しむ工夫として、間接照明を利用した夜桜の演出。防犯の役割を兼ねる。



足羽川の桜ライトアップ  
出典：福井市観光協会

## 足羽山公園との連携

沿川市街地と一体となった足羽川の水辺空間整備に伴う足羽山公園との連携  
観光資源、地域振興

### 足羽川と足羽山を結ぶ桜並木の整備

「桜の名所100選」(日本さくらの会)では足羽山と足羽川の桜がセット。足羽川と足羽山を桜並木で結ぶ。観光名所としての価値を高める。



### 足羽山公園の利用推進

既存の公園の利用推進を図る。





JR北陸本線橋(4.2k付近)～板垣橋

水辺の体験ゾーン

主な利用形態 水辺体験(カヌー・水辺に近く)・遊ぶ・憩う・運動する

( 主要な拠点施設の整備案 )

ワンド(止水域)

木田橋上流の水制に土砂が自然に堆積してワンド化。水辺体験を目的としてレクリエーション活動、学習の場としての活用。



水制ワンド イメージ

芝生自由広場

スポーツ、レクリエーションを行う場として、また、花火大会の観覧場所としての利用を図る。



芝生自由広場イメージ

( その他の整備案 )

カヌー活動拠点整備の可能性(板垣橋右岸付近)

各種団体による設置、運営・管理のもとに占用が可能な利用。

・現在福井大学カヌー部と福井県車椅子カヌークラブ等により年3回、足羽川でのカヌーイベントが実施されている。



ふくい車椅子カヌークラブHP



スロープ例

## 河川環境整備の実現方策

### 【実現方策のための基本的考え方】

#### 事業分担

施設整備の事業分担は河川管理施設と公園整備施設に大別。

治水・利水・環境上の河川管理施設：河川管理者(福井県)  
(護岸、ワンド、堤防側帯、スロープなど)

河川占用施設、緑地公園施設等：福井市  
(公園施設、ベンチなど)

#### スケジュール

激特事業期間(5年)、中期計画(10年以内)、長期計画として着実に進めていく。

#### 維持管理

整備後の施設の維持管理は県、市、そして市民・各種団体による協働による維持管理システムの構築が必要。

(桜堤の保全、ごみ清掃等)

### 【推進体制】

施設整備の具現化とその利用推進は地域のサポート体制の充実が必至。学識経験者・市民・各種団体・市・県と具体的に調整・協議し、維持管理体制を構築。